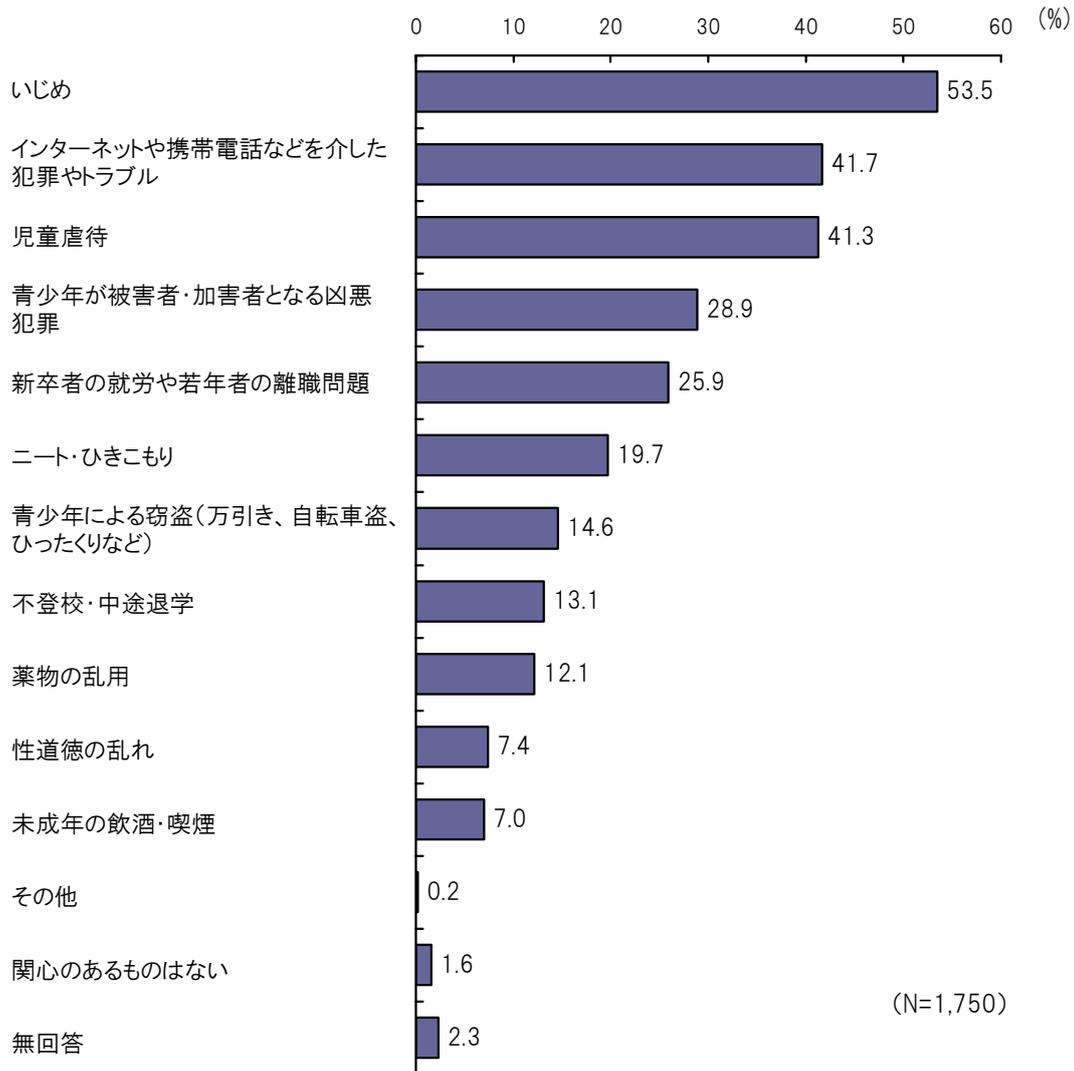


青少年の健全育成について

<青少年に関する問題への関心について>

(13) 青少年問題についての関心事

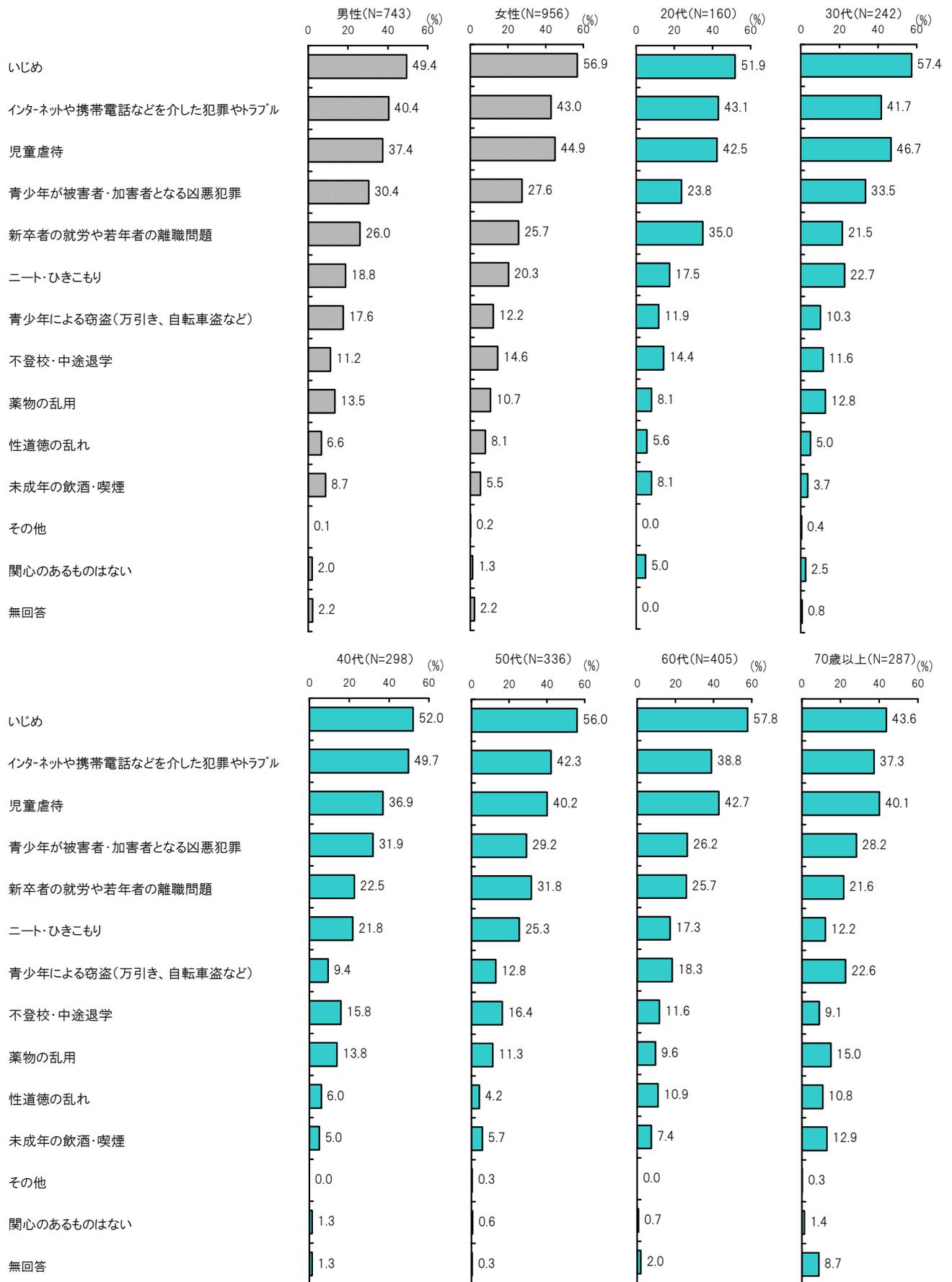
問 10 青少年に関する問題として、あなたが関心のあるものを次の中から 3 つ以内 で選んでください。 (M. A.)



青少年問題についての関心事について尋ねたところ、「いじめ」が 53.5%で最も高く、次いで「インターネットや携帯電話などを介した犯罪やトラブル」が 41.7%、「児童虐待」が 41.3%と続く。

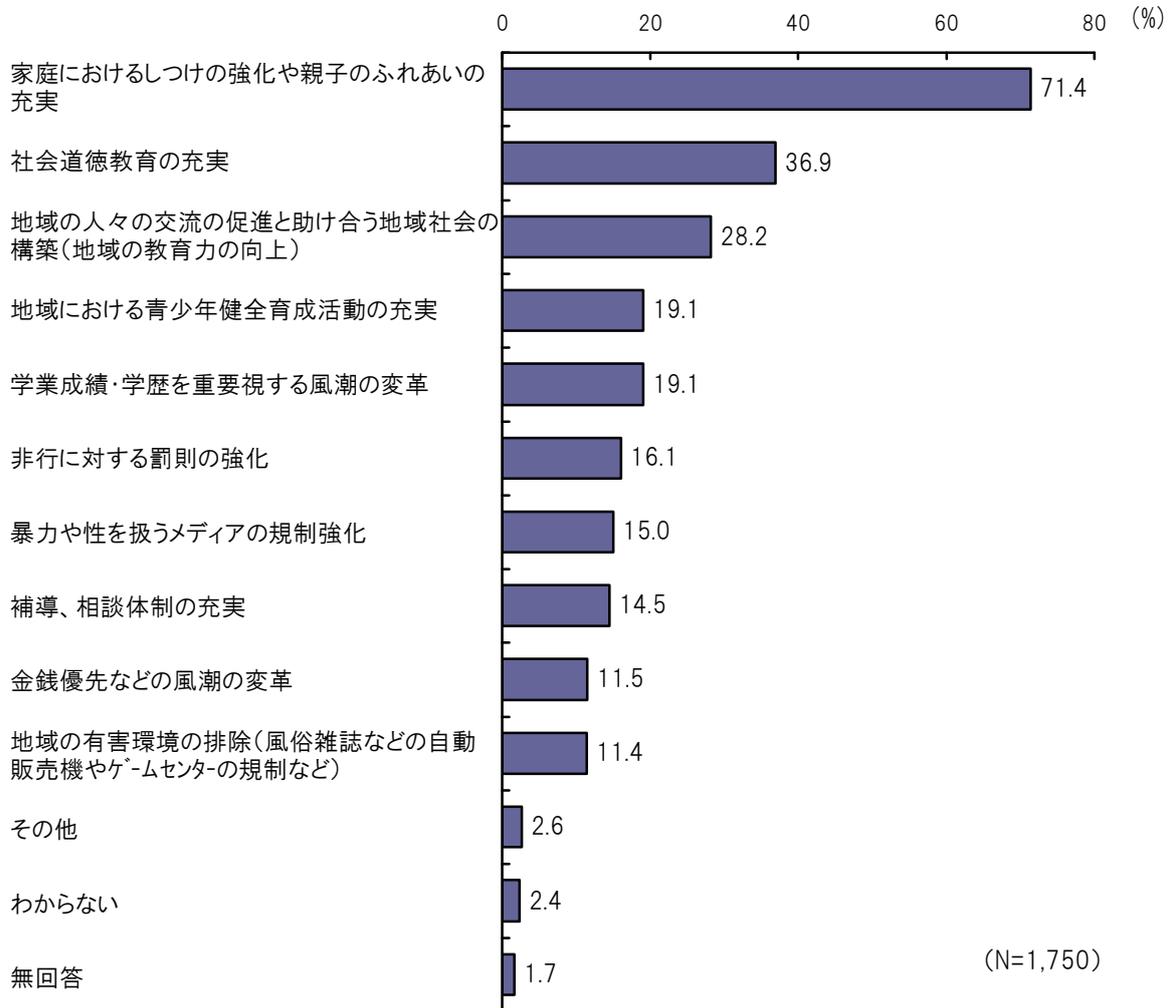
年代別でみると、「いじめ」「インターネットや携帯電話などを介した犯罪やトラブル」「児童虐待」については、年代を問わずトップ3に入っており、いずれも概ね4割を超えている。「新卒者の就労や若年者の離職問題」および「ニート・ひきこもり」については、特に50代において、他の年代と比較して高くなっている。

【性別・年代別】



(14) 青少年の健全育成を進める上で重要なこと

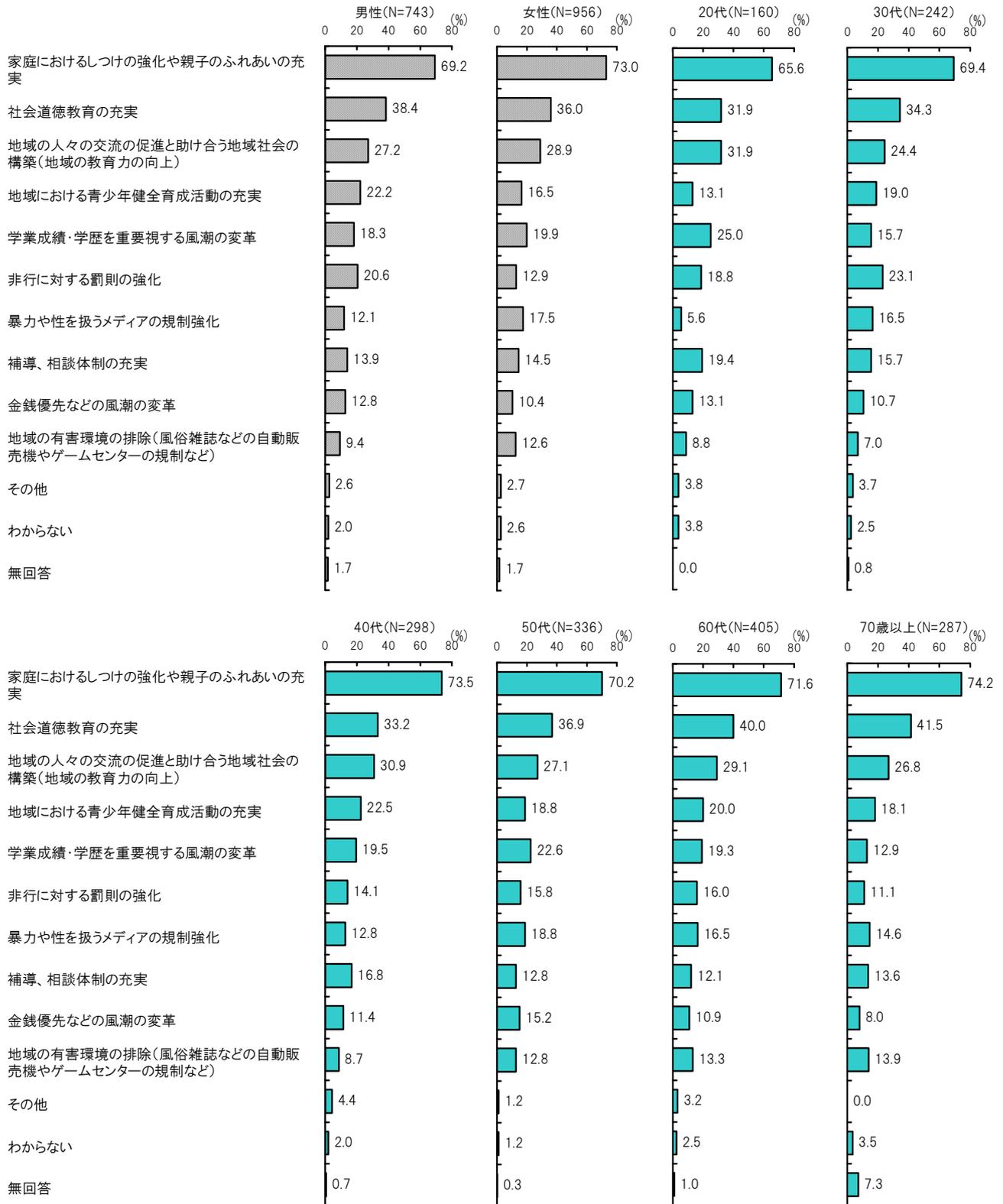
問 11 青少年の健全育成を進める上で重要なことは、どのようなことだと思いますか。あなたの考えに近いものを、次の中から3つ以内で選んでください。(M. A.)



青少年の健全育成を進める上で重要なことについて尋ねたところ、「家庭におけるしつけの強化や親子のふれあいの充実」が71.4%と突出して高くなっている。次いで「社会道徳教育の充実」が36.9%、「地域の人々の交流の促進と助け合う地域社会の構築（地域の教育力の向上）」が28.2%と続いている。

年代別でみると、すべての年代において、「家庭におけるしつけの強化や親子のふれあいの充実」が6割以上と高くなっている。

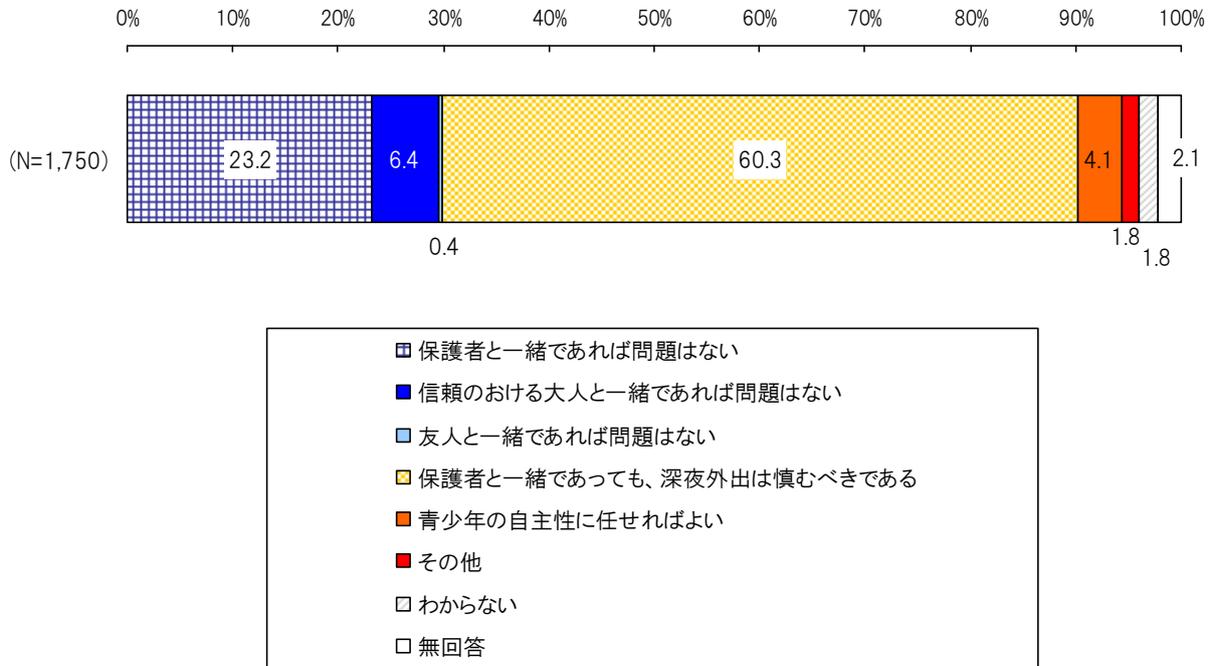
【性別・年代別】



<青少年を取り巻く環境について>

(15) 18歳未満の青少年による深夜外出についての考え

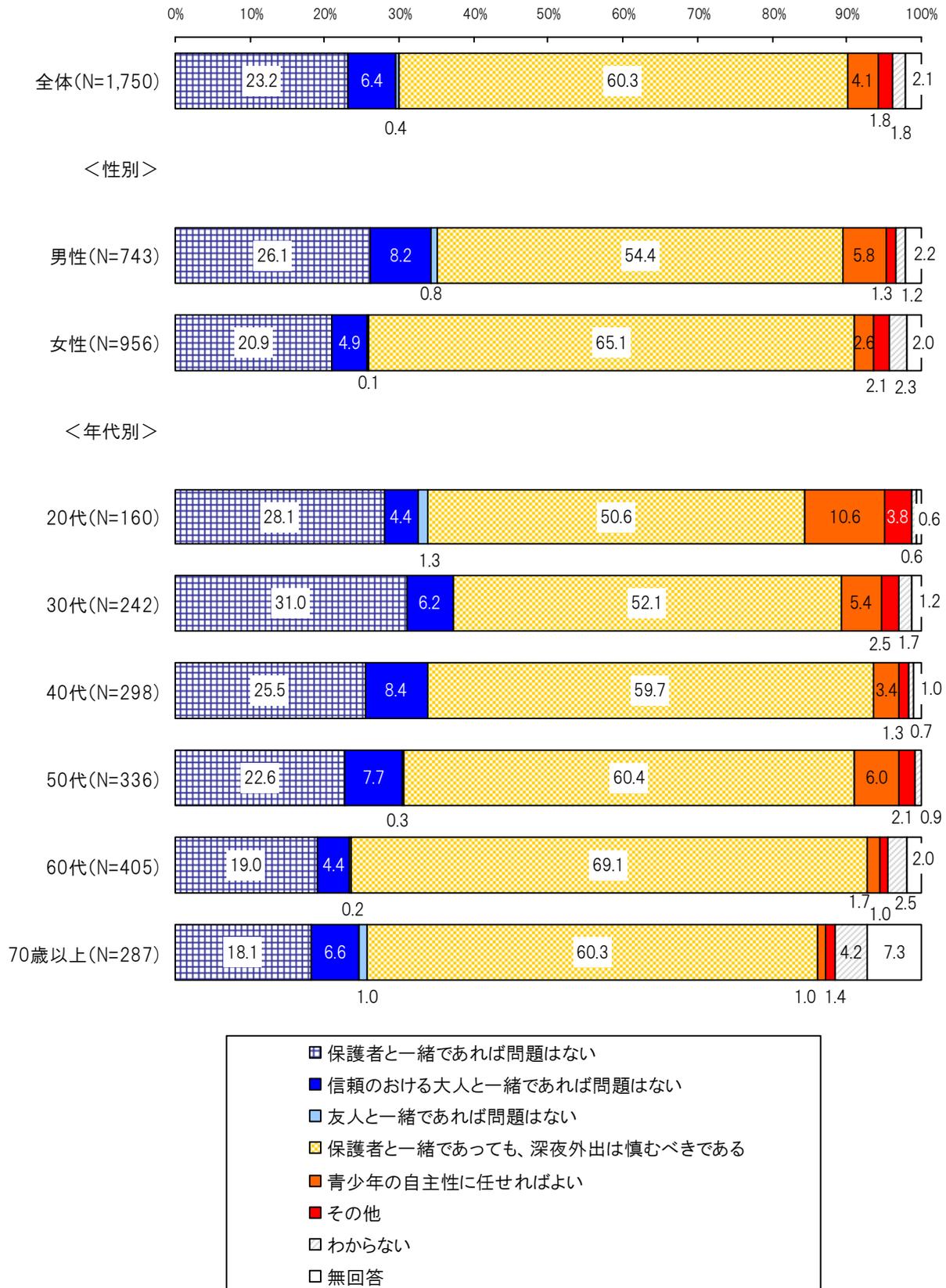
問 12 18歳未満の青少年が深夜（23時以降）に外出することについて、どのように考えますか。
あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。



18歳未満の青少年による深夜外出についての考えを尋ねたところ、「保護者と一緒であっても、深夜外出は慎むべきである」が60.3%で高い割合を占めている。次いで「保護者と一緒であれば問題はない」が23.2%となっている。

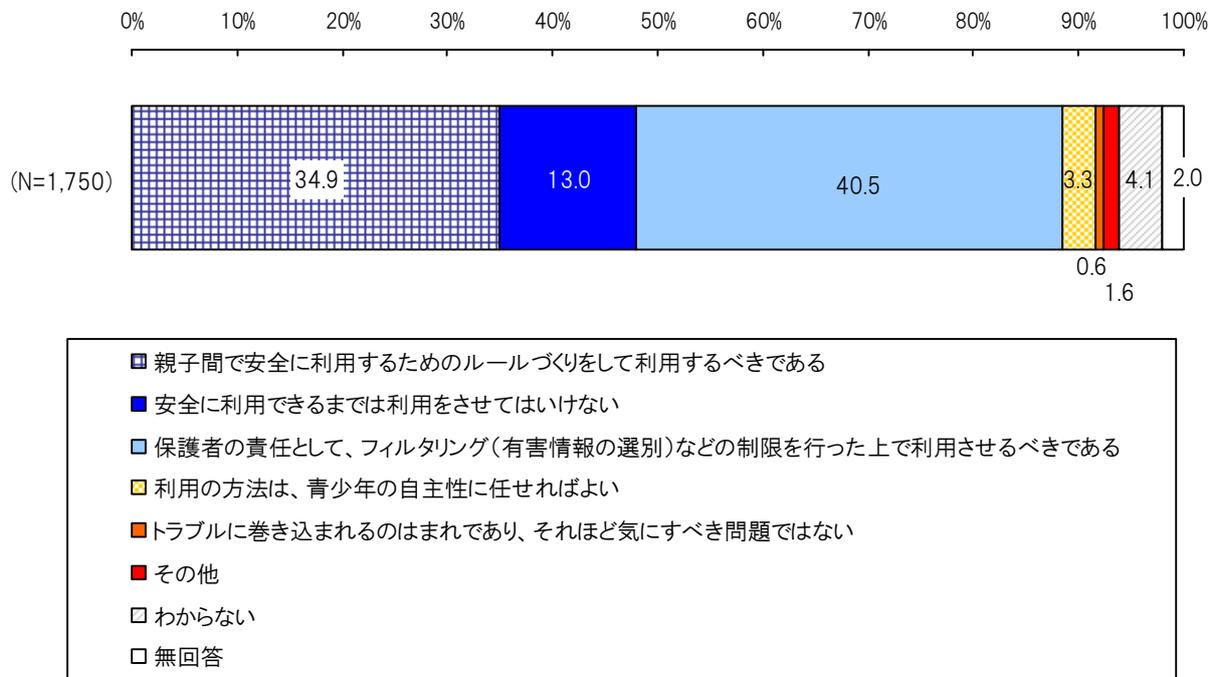
年代別で見ると、いずれの年代も「保護者と一緒であっても、深夜外出は慎むべきである」が最も高い割合を占めており、年代が低いほど「保護者と一緒であれば問題はない」の割合が高くなっている。

【性別・年代別】



(16) 青少年のインターネット利用による犯罪・トラブルについての考え

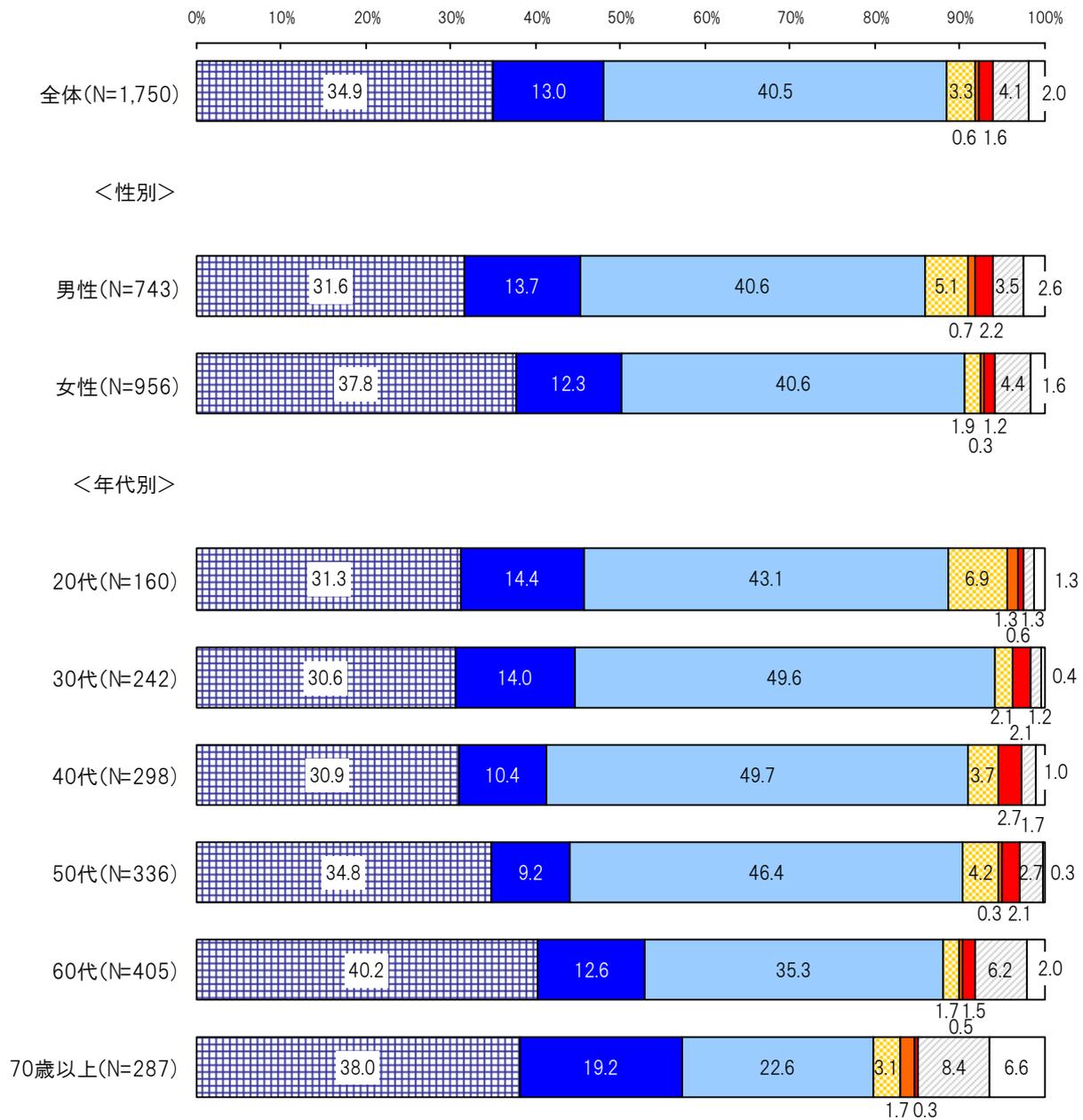
問 13 近年、青少年がインターネットの利用によってさまざまな犯罪やトラブルに巻き込まれることが問題となっていますが、あなたはこの問題についてどのように考えますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。



青少年のインターネット利用による犯罪・トラブルについての考えについて尋ねたところ、「保護者の責任として、フィルタリング（有害情報の選別）などの制限を行った上で利用させるべきである」が40.5%と最も高く、次いで「親子間で安全に利用するためのルールづくりをして利用すべきである」が34.9%、「安全に利用できるまでは利用をさせてはいけない」が13.0%と続き、この問題に対する対策の必要性を支持する人は9割近くを占めている。

年代別でみると、特に子育て世代の30～50代では「保護者の責任として、フィルタリング（有害情報の選別）などの制限を行った上で利用させるべきである」が約5割と高い割合を占めている。60代以上では「親子間で安全に利用するためのルールづくりをして利用すべきである」が高くなっている。

【性別・年代別】

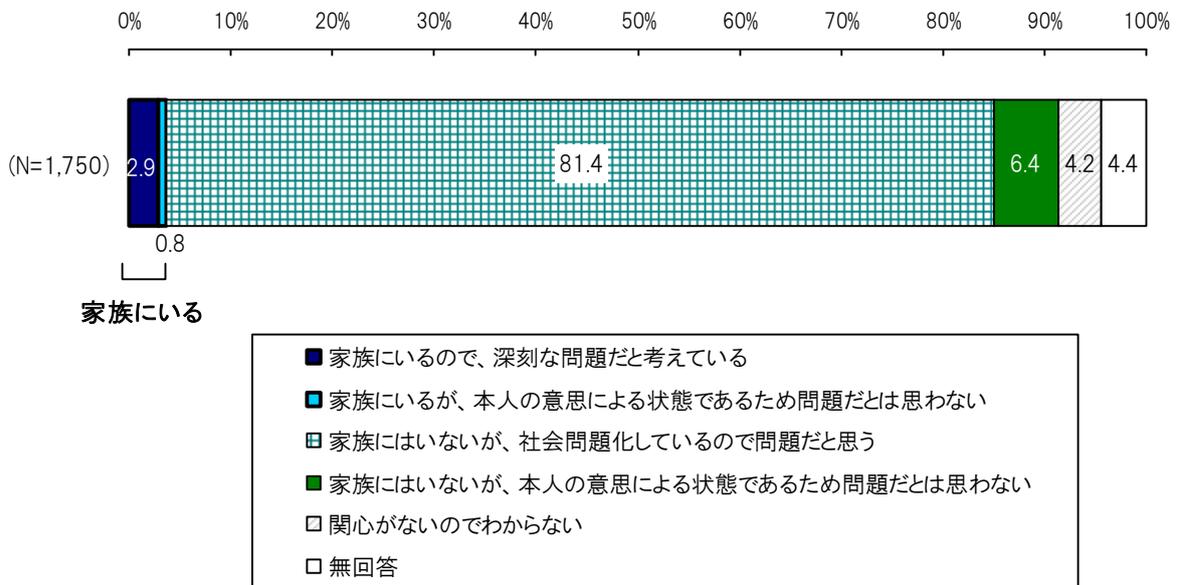


- 親子間で安全に利用するためのルールづくりをして利用するべきである
- 安全に利用できるまでは利用をさせてはいけない
- 保護者の責任として、フィルタリング(有害情報の選別)などの制限を行った上で利用させるべきである
- 利用の方法は、青少年の自主性に任せればよい
- トラブルに巻き込まれるのはまれであり、それほど気にすべき問題ではない
- その他
- わからない
- 無回答

<「ひきこもり」、ニートの問題について>

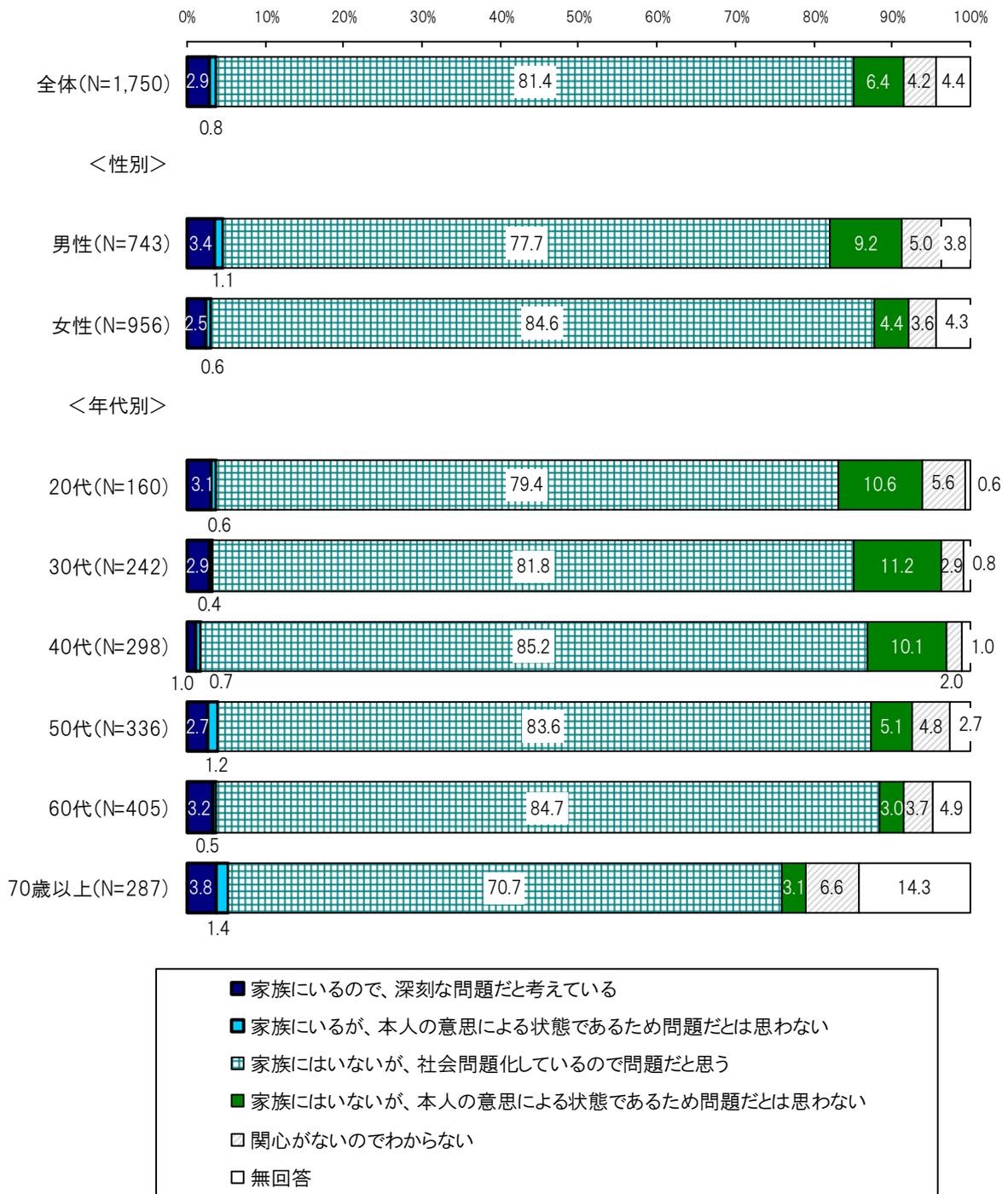
(17) 青少年の「ひきこもり」問題についての考え

問 14 青少年の「ひきこもり」問題について、あなたはどのように考えますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。



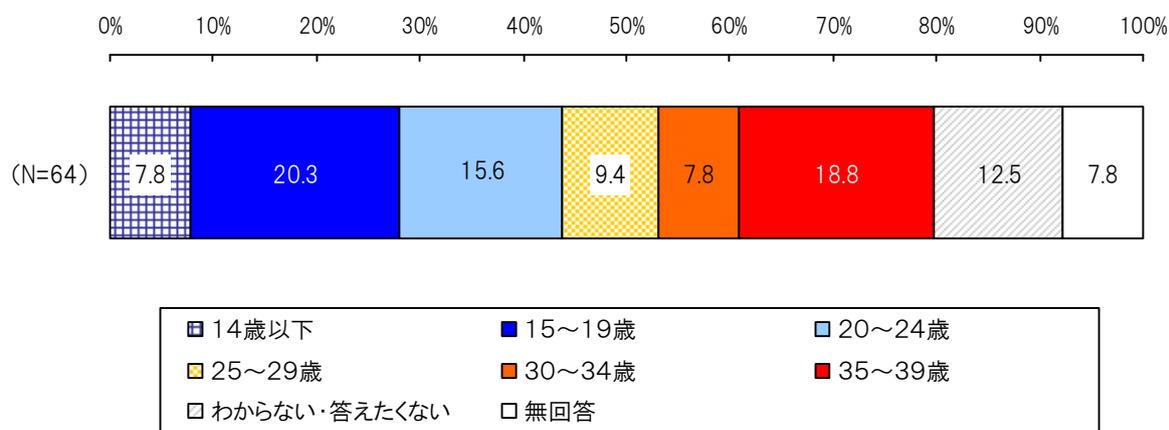
青少年の「ひきこもり」問題についての考えを尋ねたところ、「家族にはいないが、社会問題化しているため問題だと思う」が81.4%を占めている。「家族にいて、深刻な問題だと考えている」と「家族にいて、本人の意思による状態であるため問題だとは思わない」を合わせた、家族に「ひきこもり」の青少年がいる人の割合は3.7%となっている。

【性別・年代別】



(18) 「ひきこもり」状態にある青少年の年齢層

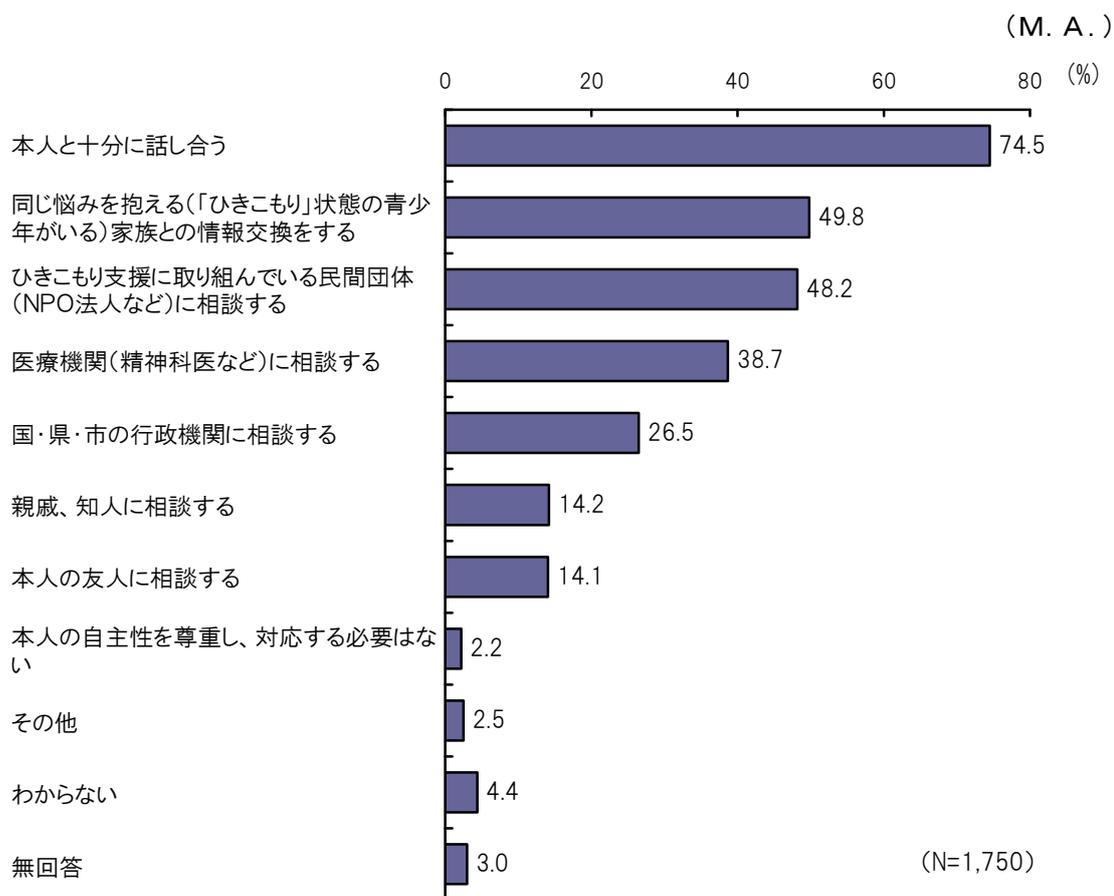
[問 14 で 1 または 2 に ○ を つ け た 人 に (家 族 に 「 ひ き こ も り 」 の 青 少 年 が い る 人 に)]
 問 14-1 「ひきこもり」の状態にある青少年の年齢層は次のうちどれですか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。



問 14 で 家 族 に 「 ひ き こ も り 」 の 青 少 年 が い る と 答 え た 人 に 、 「 ひ き こ も り 」 状 態 に あ る 青 少 年 の 年 齢 層 を 尋 ね た と ころ 、 「 15 ~ 19 歳 」 が 20.3% と 最 も 高 く 、 次 い で 「 35 ~ 39 歳 」 が 18.8% 、 「 20 ~ 24 歳 」 が 15.6% と な っ て い る 。

(19) 「ひきこもり」状態の青少年に対する家族の対応・支援

問 15 もし、家族に「ひきこもり」状態の青少年がいたら、家族としてどのように対応・支援したらよいと考えますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

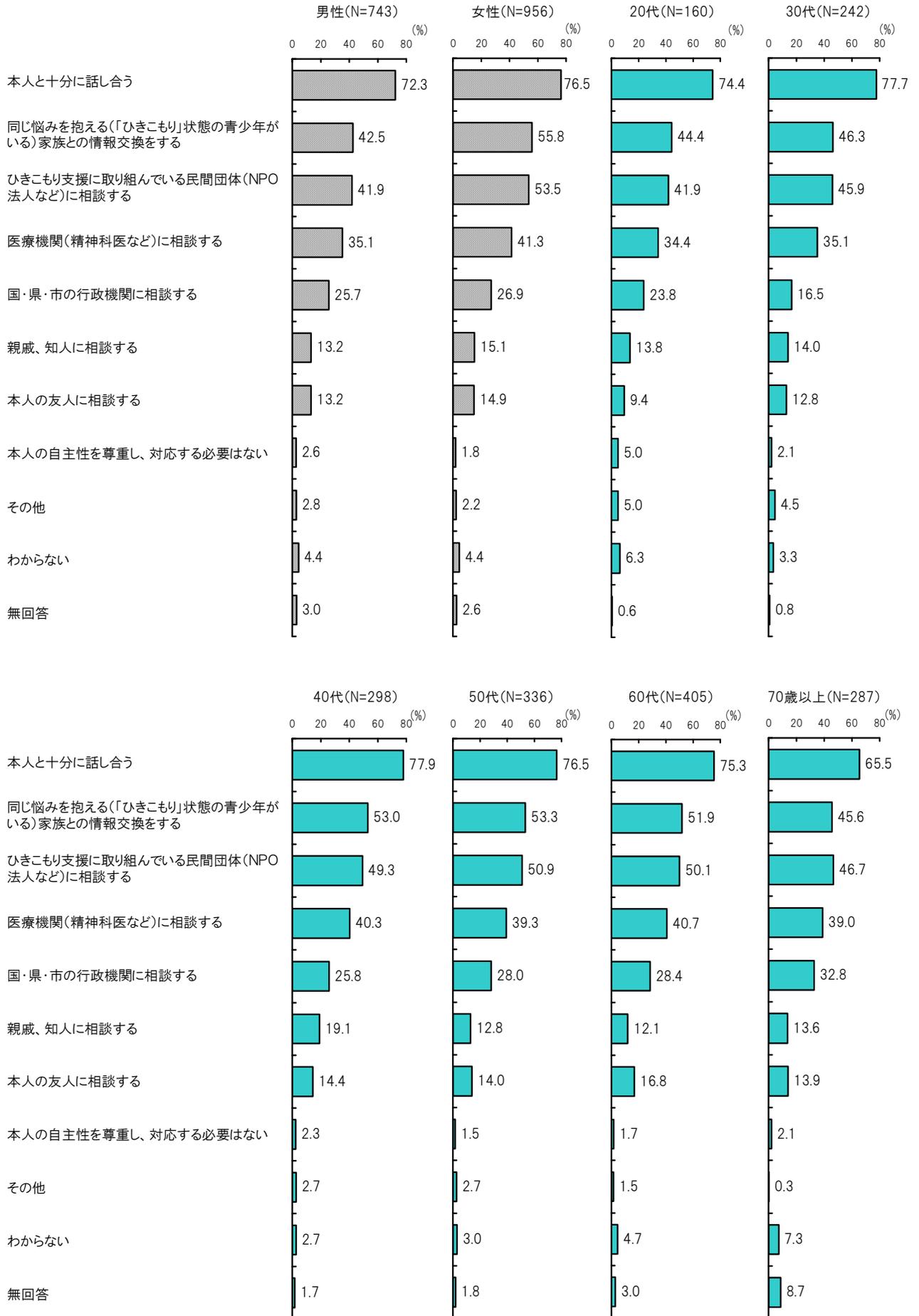


「ひきこもり」状態の青少年に対する家族の対応・支援についての考えを尋ねたところ、「本人と十分に話し合う」が74.5%と突出して高くなっている。次いで「同じ悩みを抱える(「ひきこもり」状態の青少年がいる)家族との情報交換をする」が49.8%、「ひきこもり支援に取り組んでいる民間団体(NPO法人など)に相談する」が48.2%と続き、「国・県・市の行政機関に相談する」は26.5%となっている。

年代別でみると、「国・県・市の行政機関に相談する」は年代が上がるにつれて高くなっている。

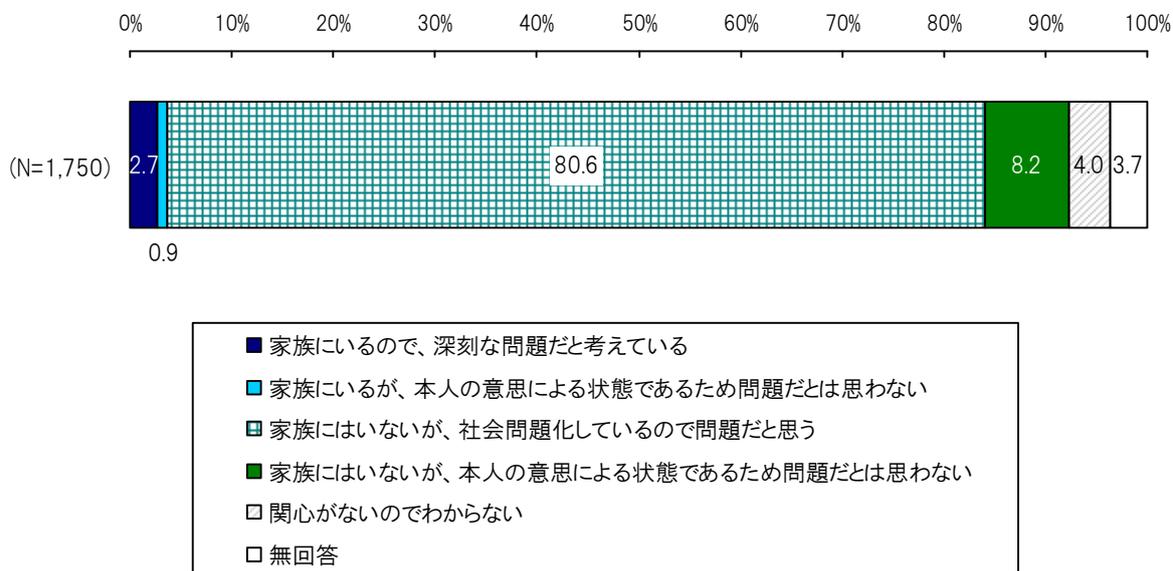
IV 調査結果

【性別・年代別】



(20) 青少年の「ニート」問題についての考え

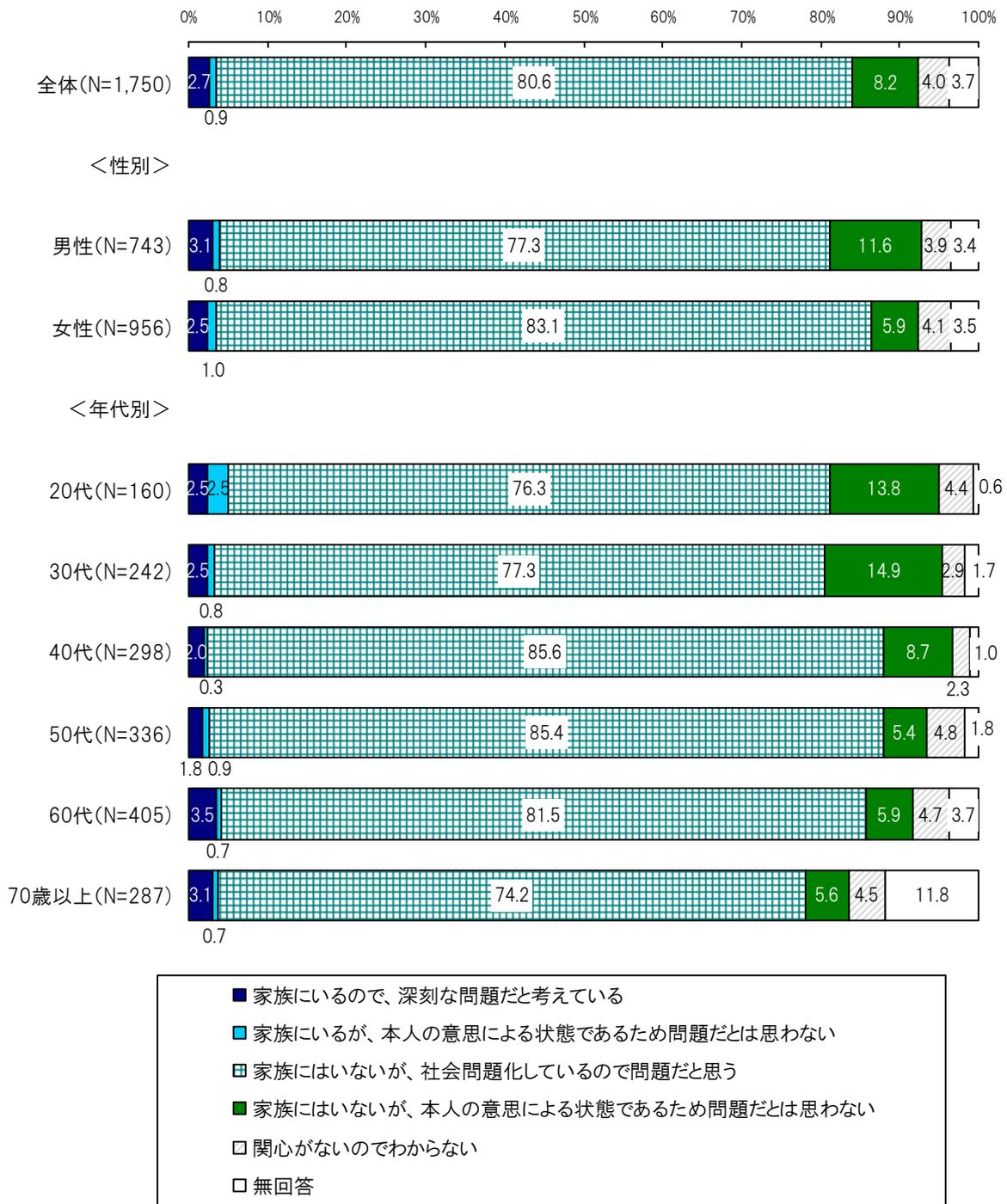
問 16 青少年の「ニート」問題について、あなたはどのように考えますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。



青少年の「ニート」問題についての考えを尋ねたところ、「家族にはいないが、社会問題化しているのが問題だと思う」が 80.6%を占めている。「家族にいないが、社会問題化しているのが問題だと思う」と「家族にいないが、本人の意思による状態であるため問題だとは思わない」を合わせた、家族に「ニート」の青少年がいる人の割合は 3.6%となっている。

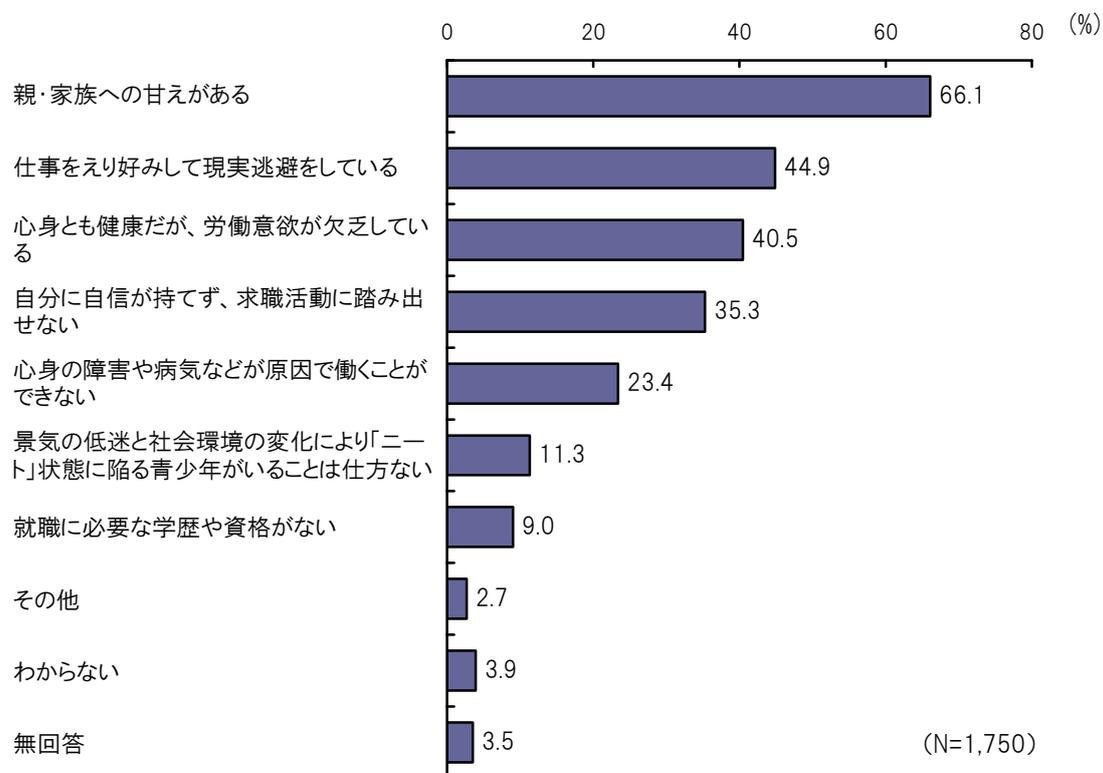
IV 調査結果

【性別・年代別】



(21) 「ニート」状態にある青少年についての考え

問 17 「ニート」の状態にある青少年について、あなたはどのように考えていますか。あなたの考えに近いものを、次の中から3つ以内で選んでください。 (M. A.)

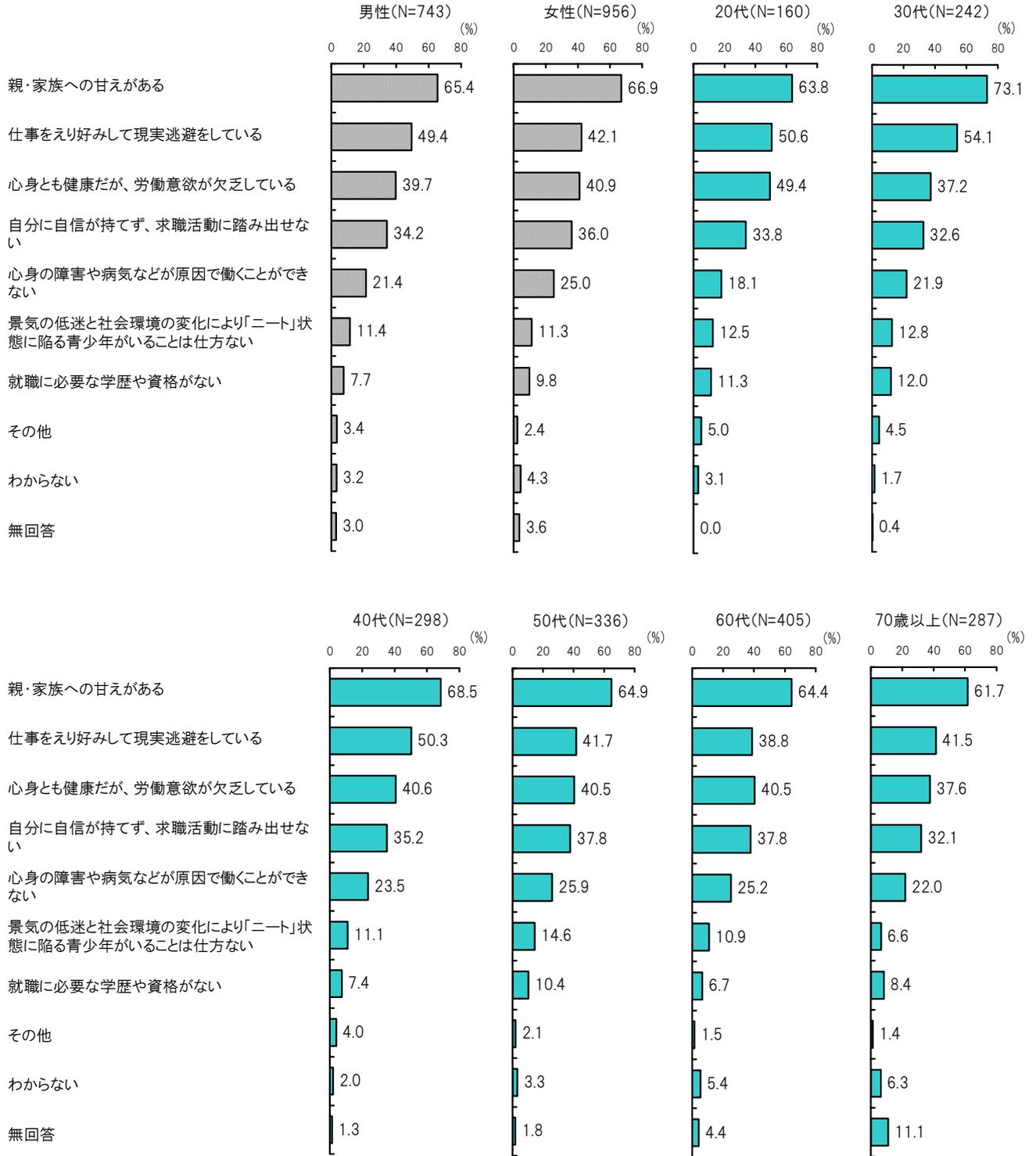


「ニート」状態にある青少年についての考えを尋ねたところ、「親・家族への甘えがある」が 66.1%と最も高く、次いで「仕事をえり好みして現実逃避をしている」が 44.9%、「心身とも健康だが、労働意欲が欠乏している」が 40.5%と続いている。

年代別で見ると、20～40代では「仕事をえり好みして現実逃避をしている」が5割を超え、50代以上の年代に比べて高くなっている。

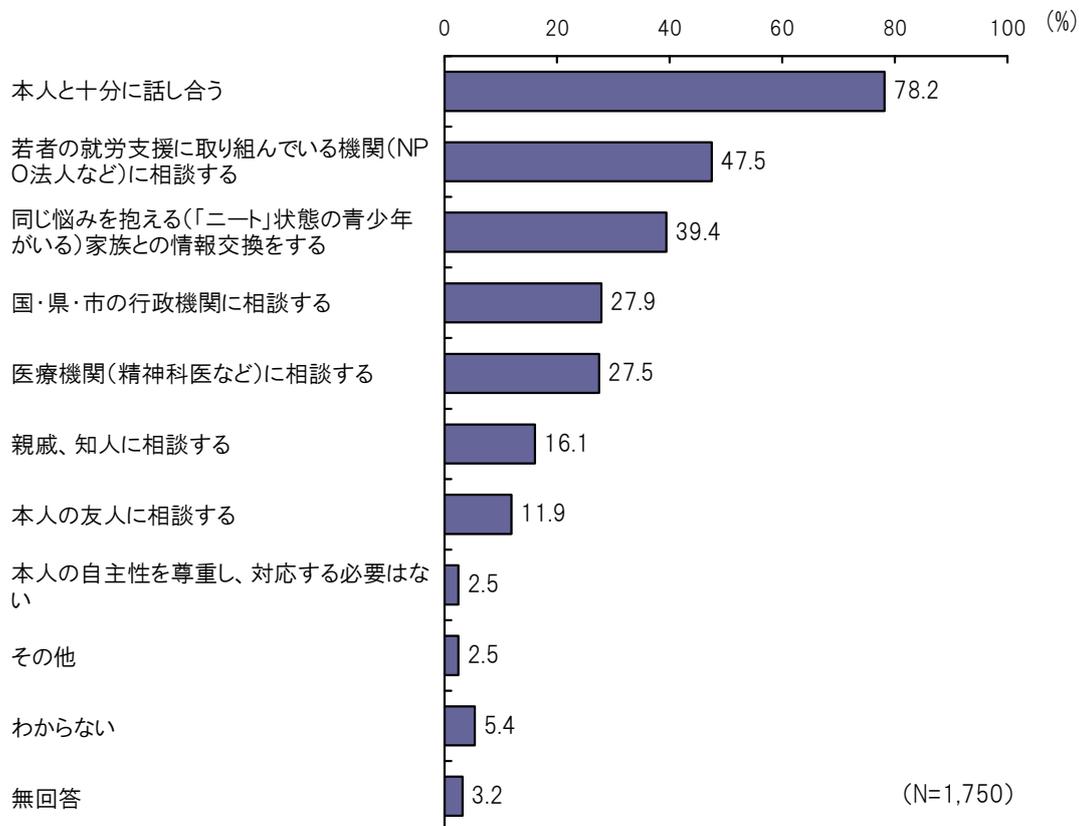
IV 調査結果

【性別・年代別】



(22) 「ニート」状態の青少年に対する家族の対応・支援

問 18 もし、家族に「ニート」状態の青少年がいるとしたら、家族としてどのように対応・支援したらよいと考えますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(M. A.)

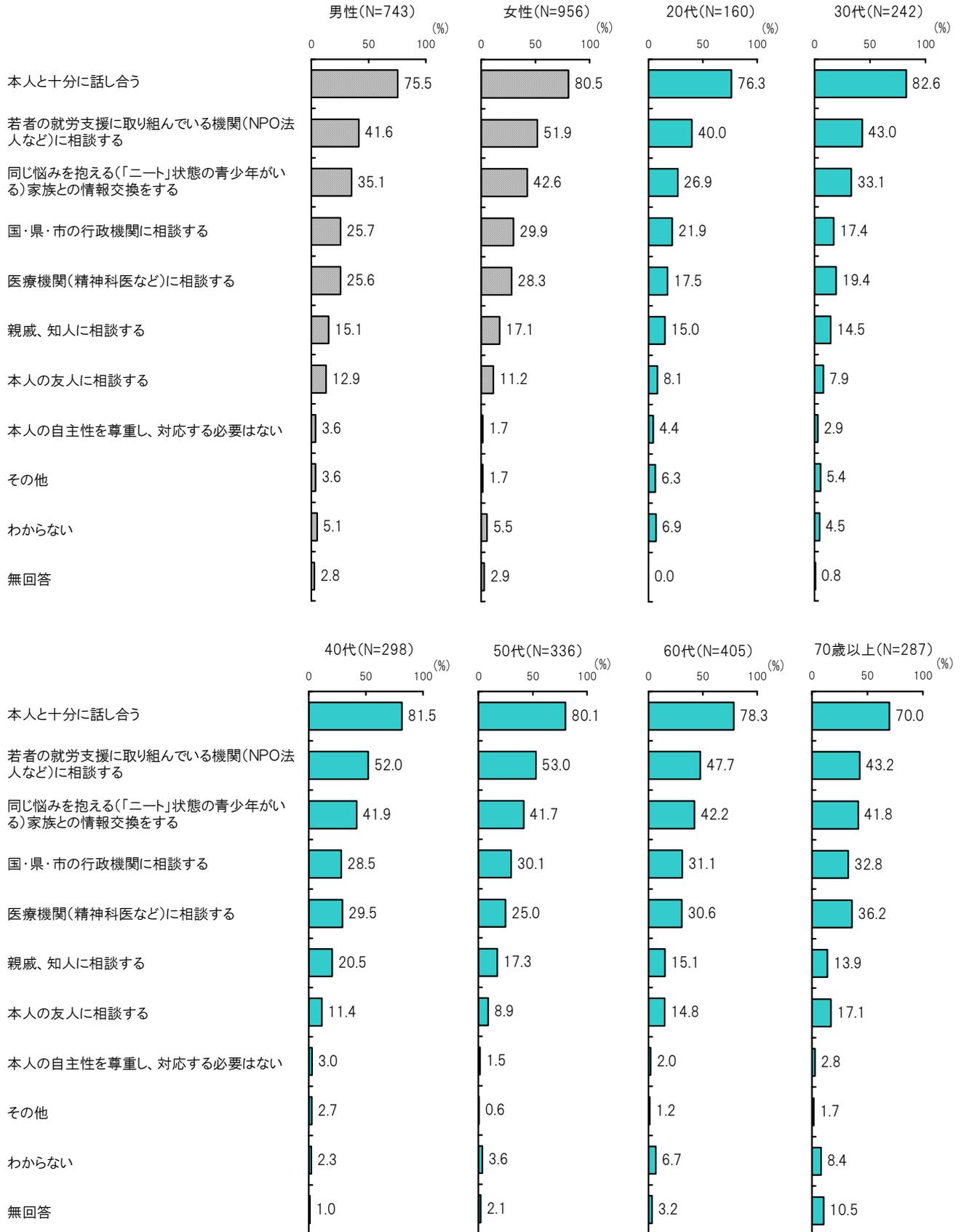


「ニート」状態の青少年に対する家族の対応・支援についての考えを尋ねたところ、「本人と十分に話し合う」が78.2%と突出して高く、次いで「若者の就労支援に取り組んでいる機関(NPO法人など)に相談する」が47.5%、「同じ悩みを抱える(「ニート」状態の青少年がいる)家族との情報交換をする」が39.4%と続いている。

年代別でみると、「国・県・市の行政機関に相談する」は年代が上がるにつれて高い数値となっている。

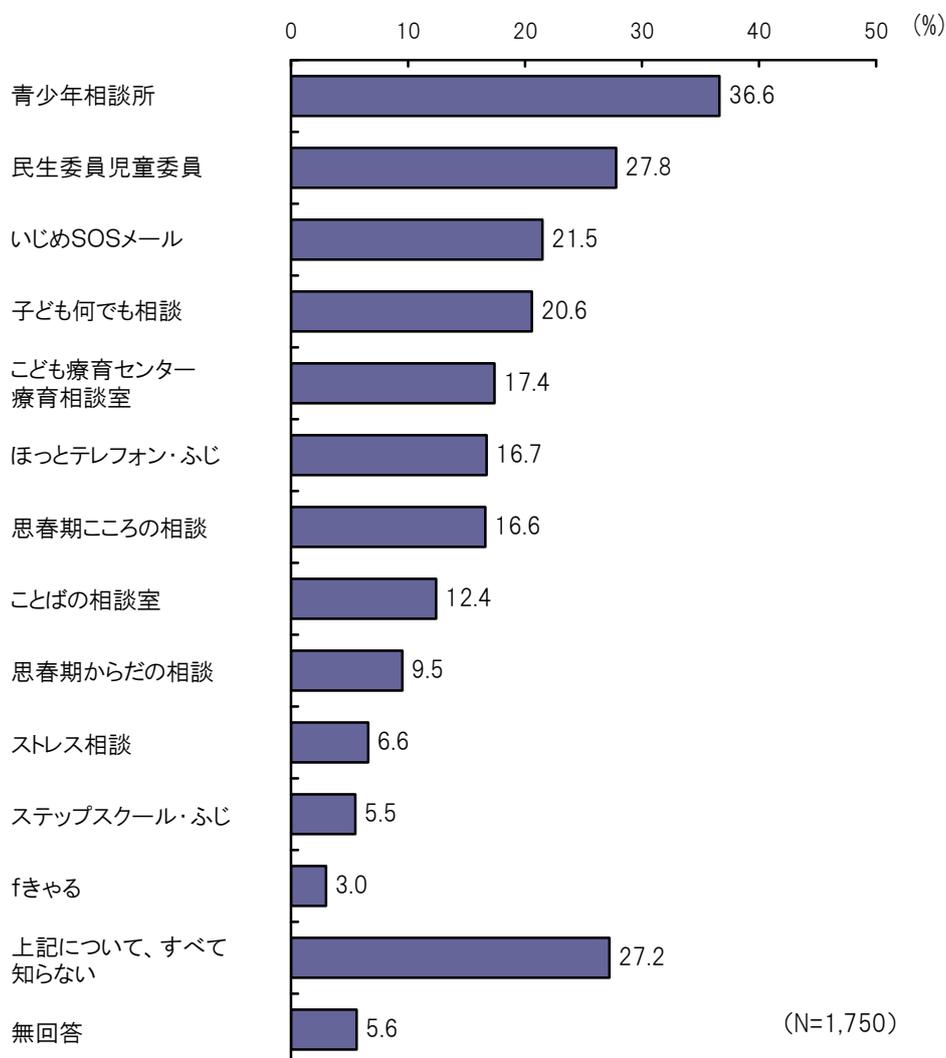
IV 調査結果

【性別・年代別】



(23) 市における青少年問題への取り組みについての認知度

問 19 富士市では、青少年が抱える問題を解決するため、次のような取り組みをしています。次の中から、あなたが知っているものをすべて選んでください。 (M. A.)

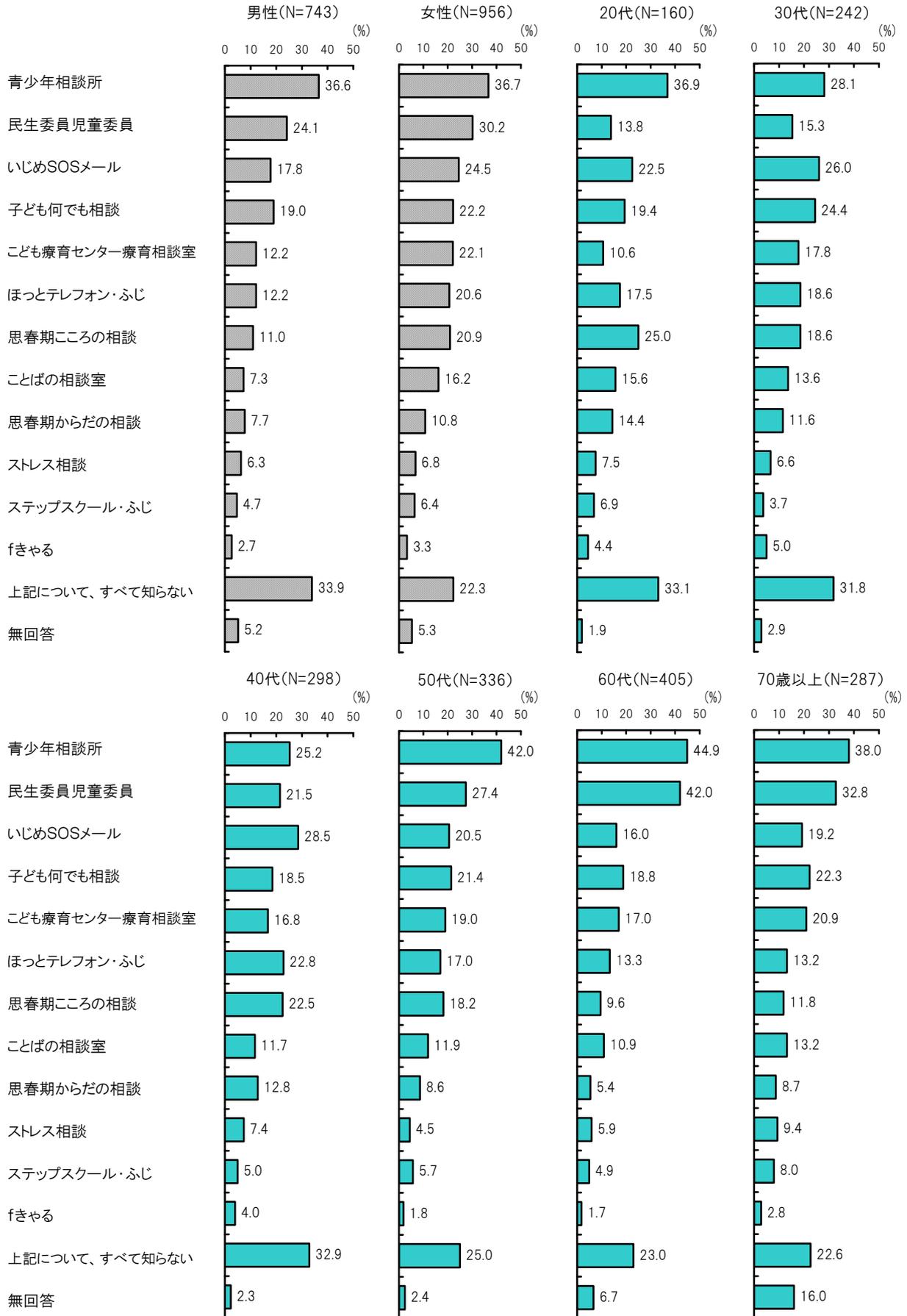


市における青少年問題への取り組みについて、それらの認知状況を尋ねてみると、「青少年相談所」が36.6%と最も高く、次いで「民生委員児童委員」が27.8%、「いじめSOSメール」が21.5%と続く。一方で、「上記について、すべて知らない」と回答した人は27.2%となっている。

年代別でみると、「青少年相談所」については50代、60代で4割以上と高くなっている。「民生委員児童委員」については年代が上がるほど高く、60代では42.0%の認知率となっている。小・中学生、高校生の親世代である40代では「いじめSOSメール」「ほっとテレフォン・ふじ」「思春期こころの相談」が、他の年代と比較して高くなっている。一方で、「上記について、すべて知らない」は20～40代で高い数値となっている。

IV 調査結果

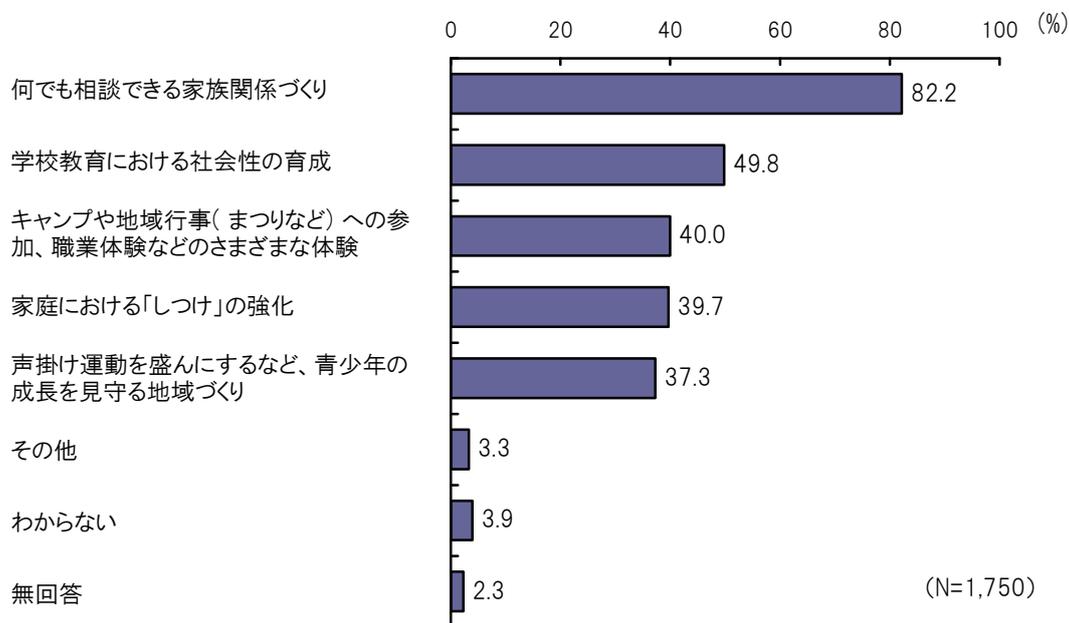
【性別・年代別】



(24) 「不登校」「ひきこもり」「ニート」に陥らないために必要なこと

問 20 青少年が「不登校」や「ひきこもり」、「ニート」などの状態に陥らないためには、どのようなことが必要であると考えますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

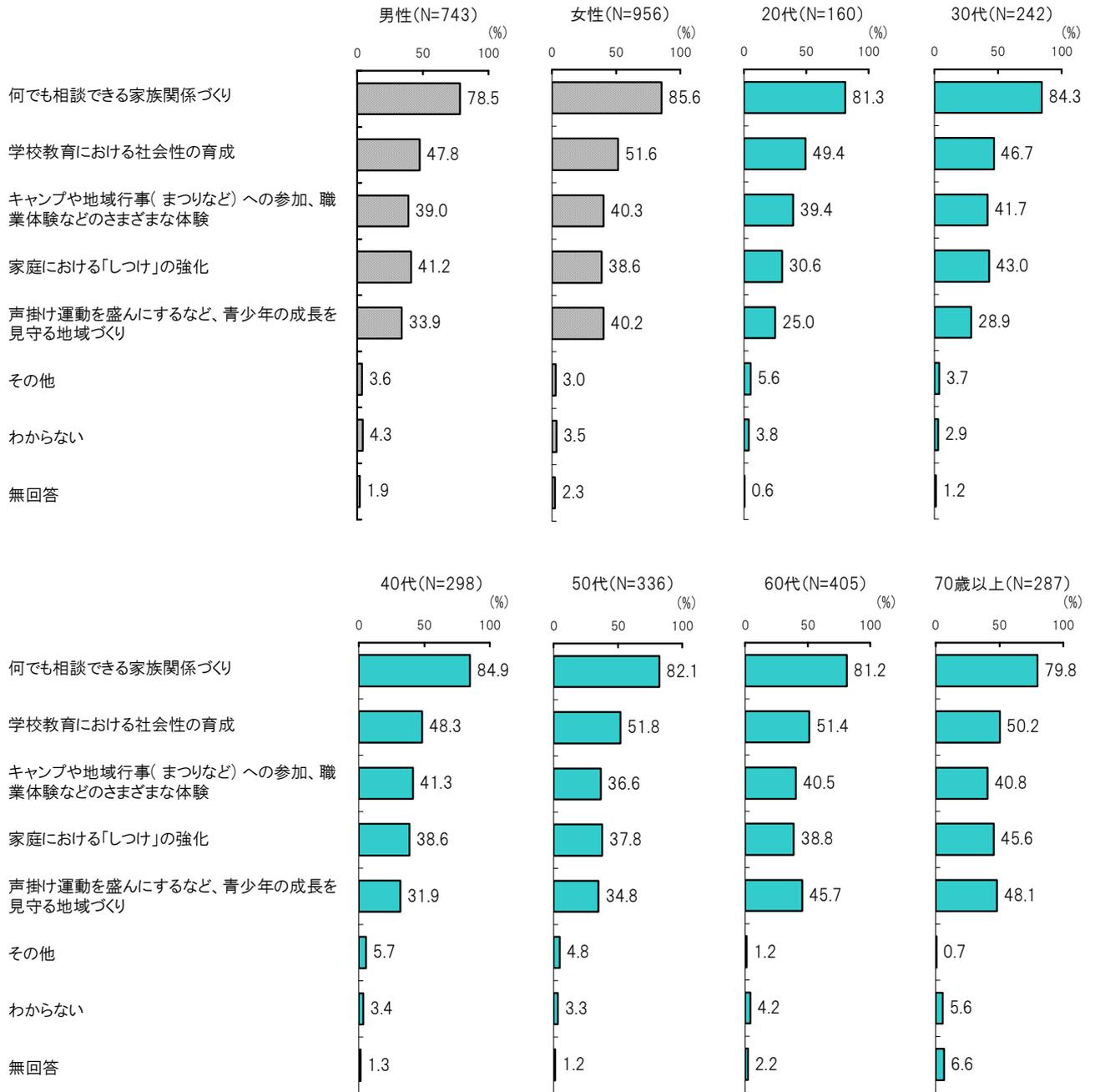
(M. A.)



青少年が「不登校」「ひきこもり」「ニート」に陥らないために必要なことを尋ねたところ、「何でも相談できる家族関係づくり」が82.2%と最も高くなっている。次いで「学校教育における社会性の育成」が49.8%と続く。

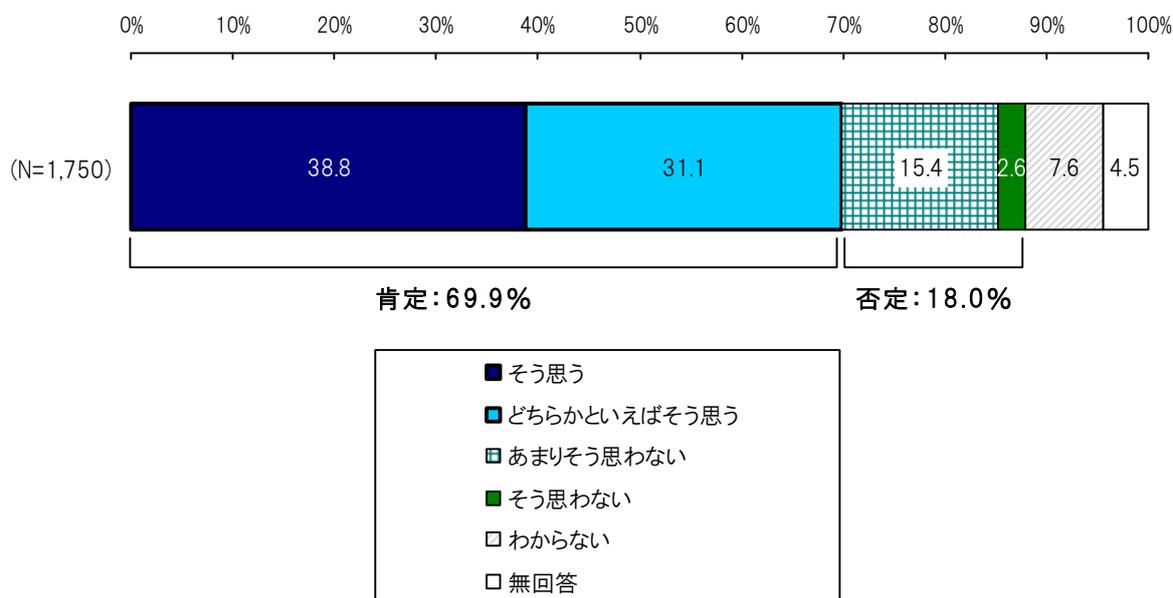
年代別でみると、「声掛け運動を盛んにするなど、青少年の成長を見守る地域づくり」は年代が上がるほど高くなり、60代では45.7%、70歳以上では48.1%となっている。

【性別・年代別】



(25) 人とかかわる体験活動の効果

問 21 キャンプ、地域行事（まつりなど）への参加など、多くの人とかわりながらの体験は、「社会を生き抜く力」を養う効果があると言われていますが、あなたはどのように思いますか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。

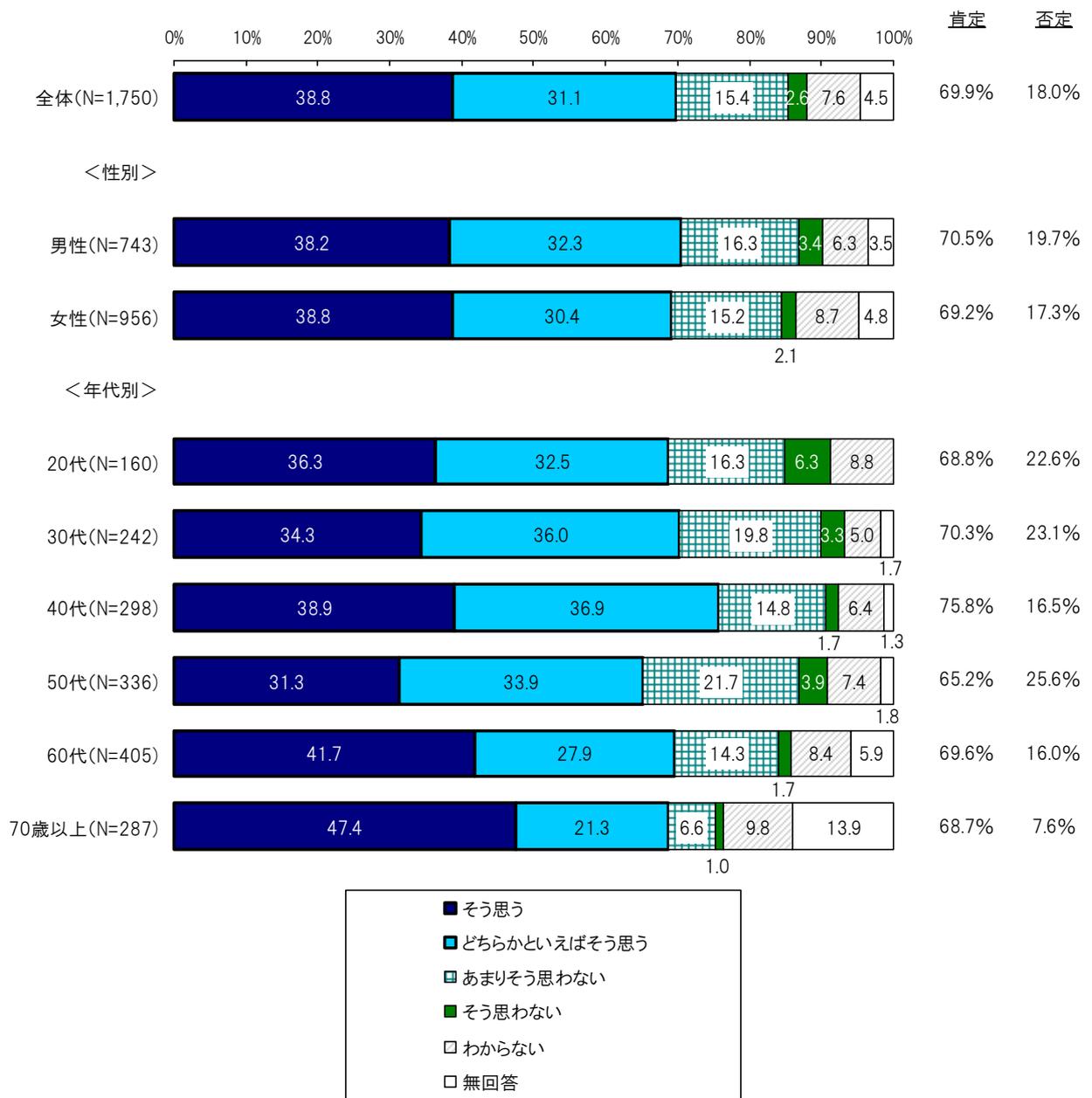


キャンプや地域行事への参加など、人とかかわる体験活動の「社会を生き抜く力」を養う効果についての賛否を尋ねたところ、「そう思う」が 38.8%、「どちらかといえばそう思う」が 31.1%と、この2項目を合わせた肯定的な人は 69.9%を占める。一方、「あまりそう思わない」が 15.4%、「そう思わない」が 2.6%とこの2項目を合わせた否定的な人は 18.0%となっている。

性別、年代別問わず、肯定的な人が6割以上の多数を占めている。

IV 調査結果

【性別・年代別】

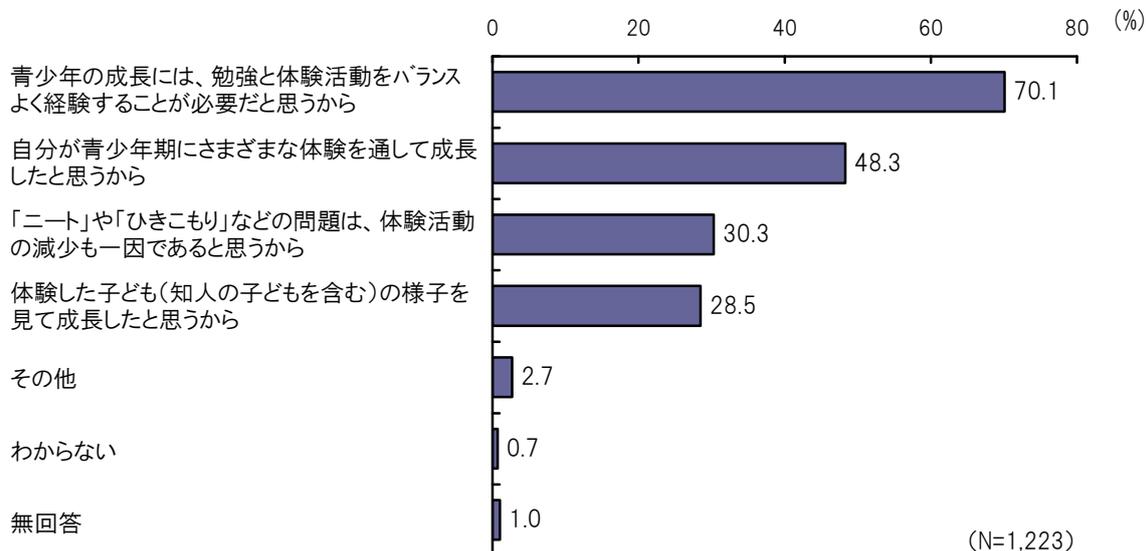


(26) 人とかかわる体験活動の効果／肯定的意見の理由

[問 21 で 1 または 2 に ○ を つ け た 人 に (肯 定 的 な 人 に)]

問 21-1 なぜ、そのように思いますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

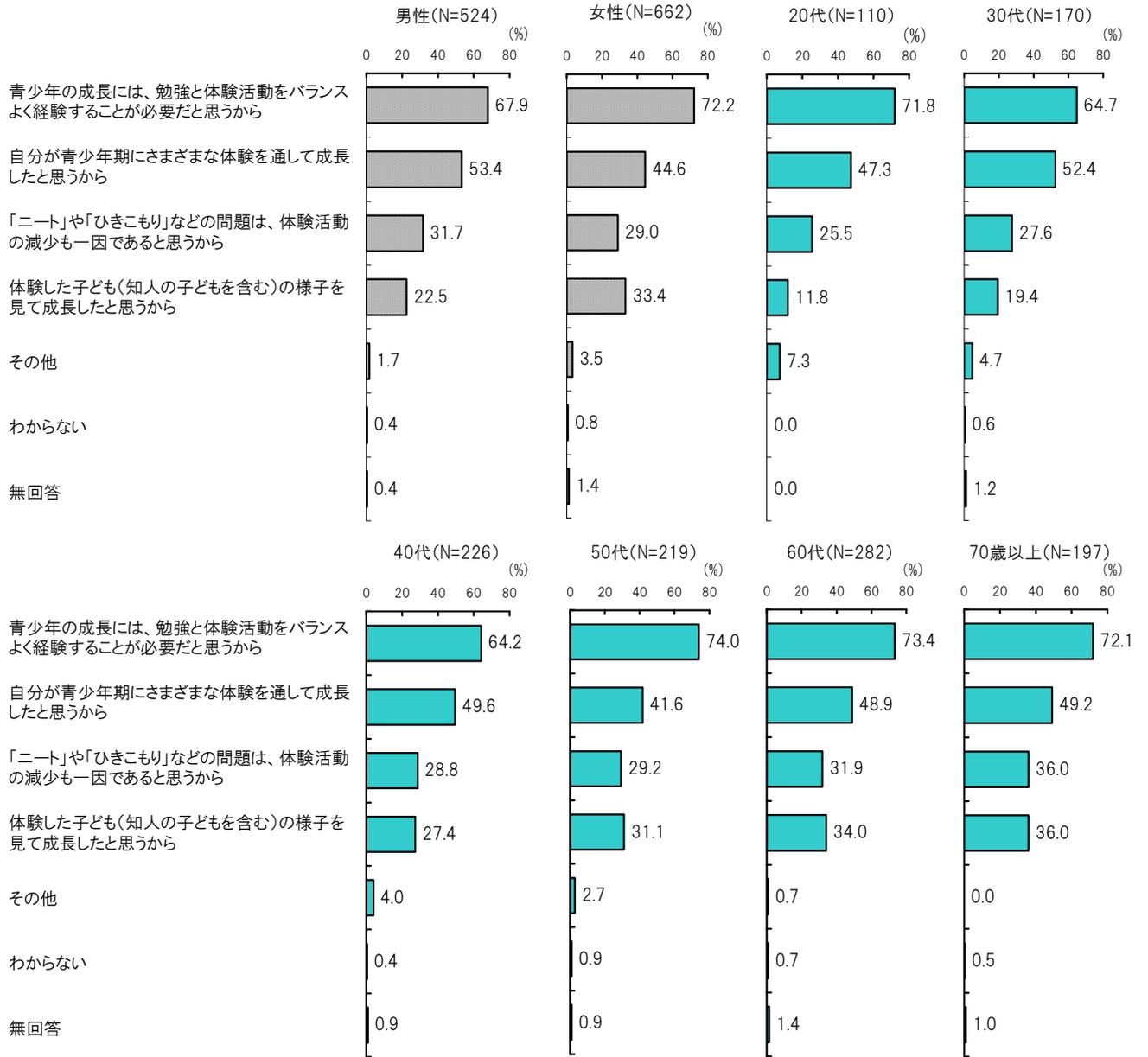
(M. A.)



問 21 で人とかかわる体験活動の効果に肯定的な人にその理由を尋ねたところ、「青少年の成長には、勉強と体験活動をバランスよく経験することが必要だと思うから」が 70.1%と最も高く、次いで「自分が青少年期にさまざまな体験を通して成長したと思うから」48.3%となっている。

IV 調査結果

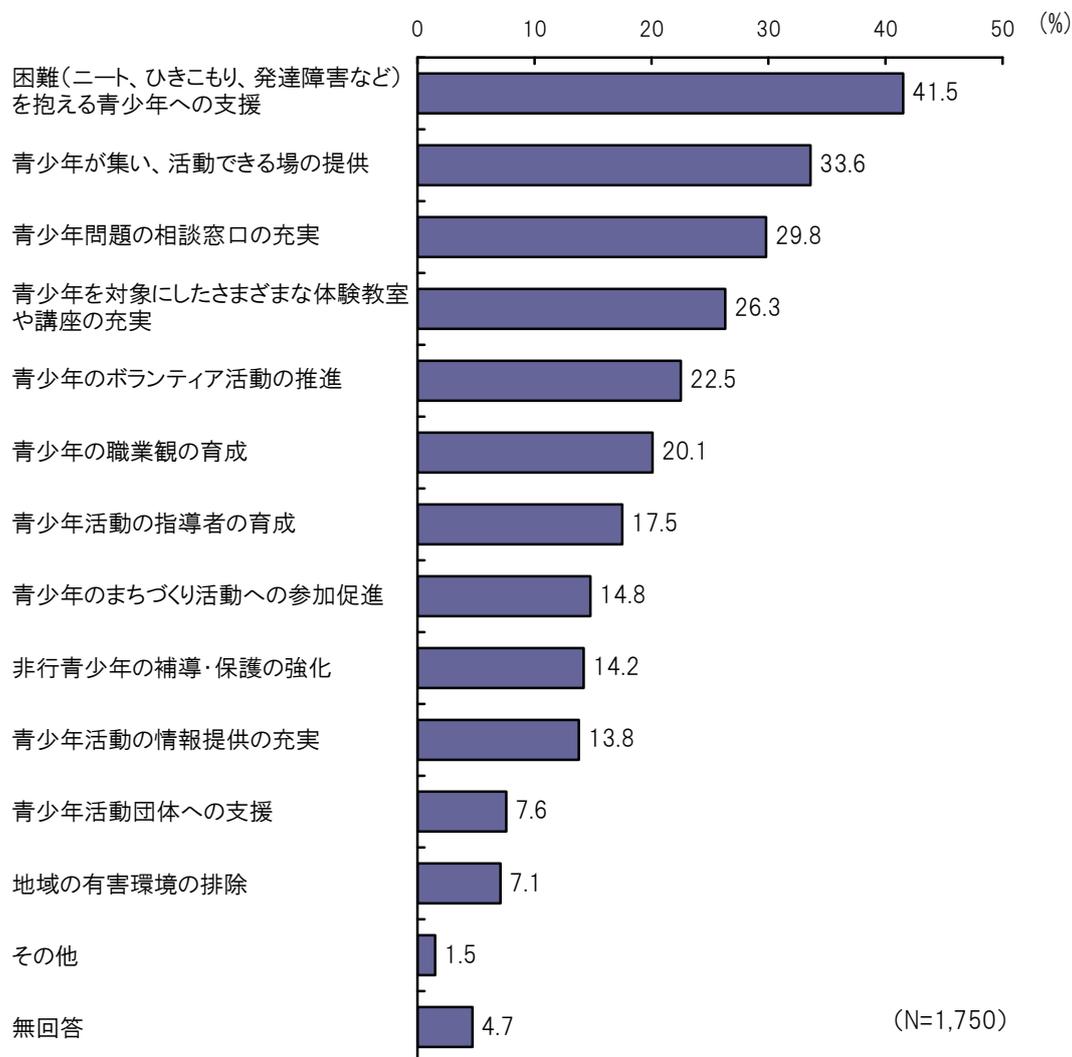
【性別・年代別】



(27) 青少年健全育成について市に望む施策

問 22 青少年健全育成（困難を抱える子ども・若者支援を含む）のために、あなたが市に望む施策はどのようなものですか。次の中から当てはまるものを3つ以内で選んでください。

(M. A.)

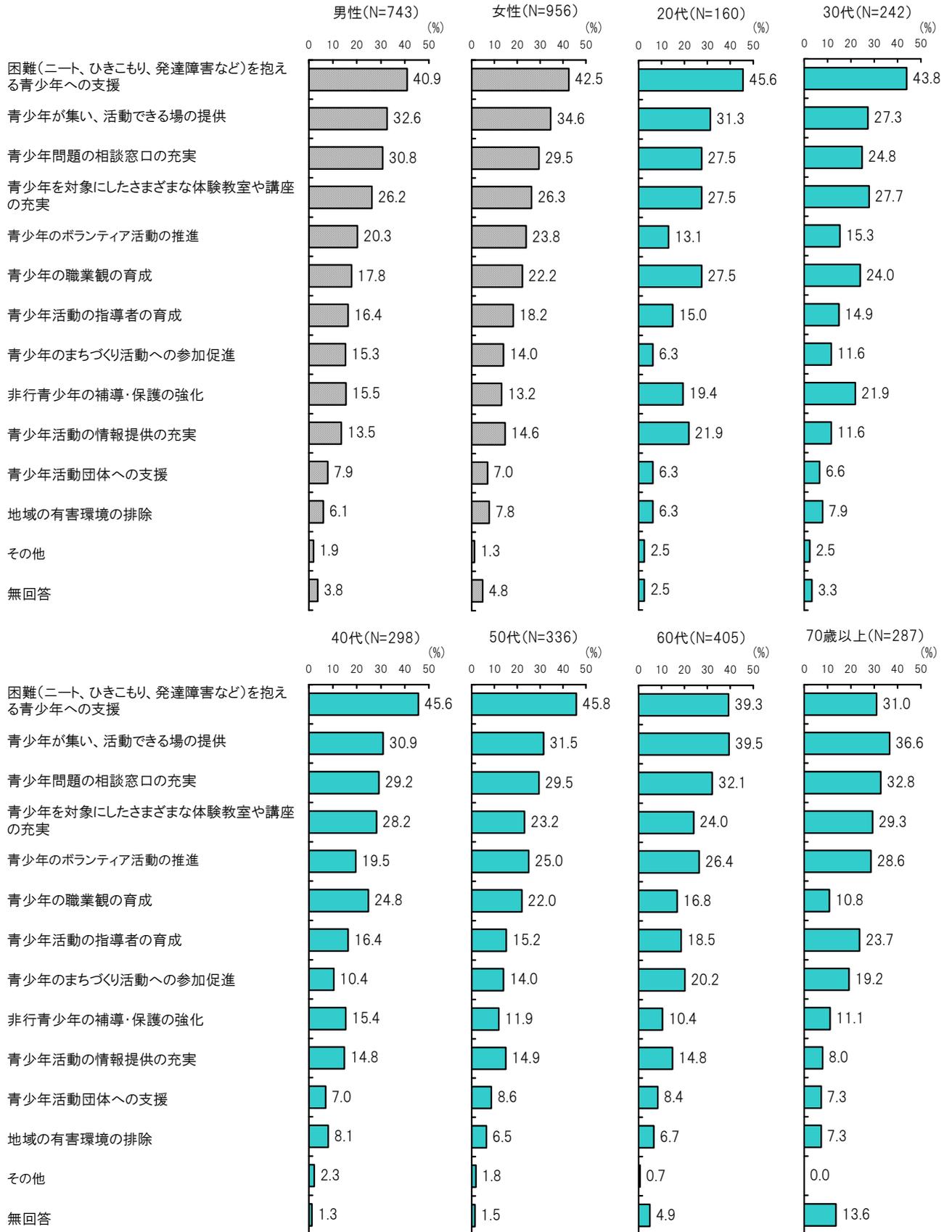


青少年健全育成について市に望む施策について尋ねたところ、「困難（ニート、ひきこもり、発達障害など）を抱える青少年への支援」が41.5%と最も高く、「青少年が集い、活動できる場の提供」が33.6%、「青少年問題の相談窓口の充実」が29.8%と続く。

年代別でみると、「青少年のボランティア活動の推進」は年代が上がるほど期待する人の割合が高くなっている。一方で、「青少年の職業観の育成」については年代が低くなるにつれて、その割合が高くなっている。

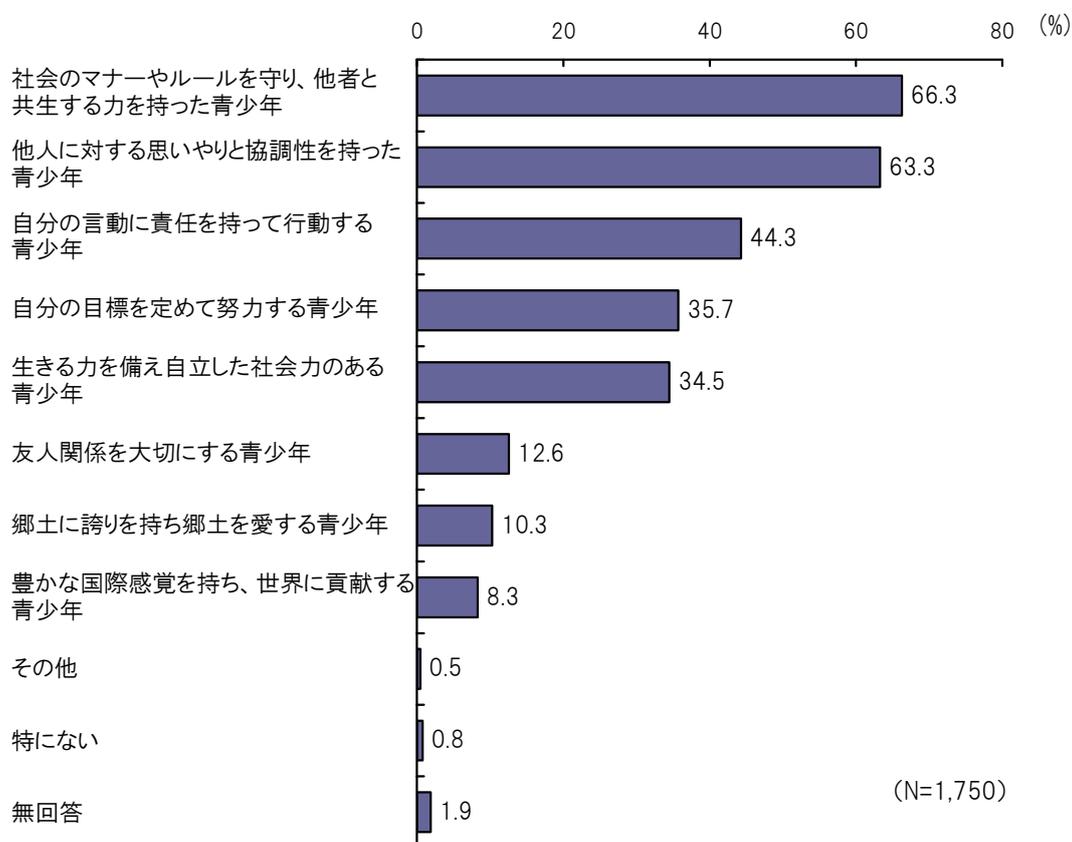
IV 調査結果

【性別・年代別】



(28) 次代の富士市を担う青少年の望ましい姿

問 23 次代の富士市を担う青少年の姿として、あなたが望ましいと思われるものを、次の中から当てはまるものを3つ以内で選んでください。 (M. A.)



次代の富士市を担う青少年の望ましい姿について尋ねたところ、「社会的マナーやルールを守り、他者と共生する力を持った青少年」が66.3%、「他人に対する思いやりと協調性を持った青少年」が63.3%と高くなっている。次いで「自分の言動に責任を持って行動する青少年」が44.3%、「自分の目標を定めて努力する青少年」が35.7%、「生きる力を備え自立した社会力のある青少年」が34.5%となっており、共生力や協調性など社会の中における人とのかかわりに関する項目が上位を占めている。

【性別・年代別】

